

BB通信

5月号vol.18



5月も終わりに近づき、日中は半袖でも汗ばむような気候になってきました。冬明けに芽吹いた草花も、この頃になるとみるみる大きくなっていきます。そんな自然界と同じで、選手が本当にパフォーマンスを発揮するのはこれから秋にかけてです。一年を通じての選手の状態の変化もあれば、大人になっていく過程での状態の変化もあります。いろいろな要素を考慮しながら、私たち指導者は大きく長い視野を持って選手の指導に携わっていきます。

『子供たちの未来は、接する大人の言動次第・・・？』

コーチ 阪長 友仁

みなさん、こんにちは。BB通信へ久々寄稿の阪長です。

1年生の選手・ご家族の皆さん、歓迎会でご挨拶(スペイン語で挨拶し、会場をシーンとさせてしまった者です)させていただきましたが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私自身は2008年から約6年間ラテンアメリカと言われる中南米に住み、現地の野球普及に関わる機会をいただきました。初めて訪れた南米・コロンビアでは、子供たちの言動が理解できず、頭がクラクラしたことを覚えています。それは言葉が聞き取れなという意味ではなく、日本の子供たちには考えもつかない言動が常に彼らからあったからです。

彼らはなぜか(?)超自信家で、とにかく「おれを試合に出せ！良い打順で打たせろ！ショートを守らせろ！」と常にアピールしてきて、メンバー票を書いている最中も監督をする自分に大勢でまとわりついてきます。三振してもお構いなしで「おれがストレートを待っていたのに、あいつがカーブを投げてくるからあいつが悪い！」と言い、ゴロを捕り損ねたら、「あそこでイレギュラーしたから仕方がない！」と開き直ります(大してはねてませんやん、笑!!)。

「何なん？この超積極的で、失敗を全く気にしない子供たちは？」と、自分のこれまでの経験では頭が追い付かず、彼らへの対応に四苦八苦したことをついこの前のように思い出します。

そして、数年間ラテンアメリカで暮らし、身も心もすっかりラテン化された(?)自分ですが、現在日本に滞在中は、子どもたちが大好きな野球をもっと好きになれるように、常に失敗を恐れずにチャレンジできるようにという、「堺ビッグボーイズ」の大方針のもとで指導者のみなさんと指導にあたらせていただいています。子どもたちを観察していると、ある変化が生まれてきているような気がします。

- ・試合の日の朝、グラウンドで顔を合わせると、右肩をグルグル回しながら「おはようございます！」と挨拶してくる選手。
- ・怪我をしていた足を激しく振りながら挨拶してくる選手。
- ・試合中(しかも全国大会の予選の公式戦!)に「僕はいつでも準備できています！」とひっきりなしに言う選手たち。
- ・練習に訪れた来客に突然「あなたプロのスカウトでしょう(実際は違います)？僕、良い選手なので、僕のプレーをしっかりと見ていってくださいね!!」とアピールする選手たち。

こんなことが日常茶飯事で、いつも笑わせてもらっている自分がいることに気づきます。

そして、ふっと我に返ると、「なんだ！こいつら!？」と思わされたラテンアメリカの子供たちと同じような言動を、目の前の日本の子供たちもしているなど・・・(笑)。

ということは、ラテンアメリカだから彼らは積極的だ!とか、彼らは失敗を恐れない!ということではなく、接する周りの人間や環境次第で日本の子供たちも十分に超積極的で、失敗を恐れない選手に、また人としてもそうなるのかなと最近痛感しています。

子供たちが、強たくたくましく、これからの時代を生き抜いていくために、まずは周りの大人が強たくたくましくこの時代を生きていく、それを子供たちは目で見て、肌で感じているんだと思います。

そういった意味でも、まだまだ未熟な私ですが、これからもみなさんと共に成長していくことができたらと思っています。バモス!バモス!!

「世界No.1プレイヤーの育て方」

コーチ 岩井 健一

先日、映画「メッシ」を見ました。サッカーをしている人、していない人もよく知っていると思いますが、スペインのバルセロナでプレーする誰もが認める世界No.1プレイヤーのあのメッシのドキュメンタリー映画です。

私はメッシのプレーはよく見ていたのですが、彼がどのようにして世界No.1プレイヤーになったのかはよく知りませんでした。何気なく見ていましたが、天才プレイヤーメッシを温かく見守る家族のあり方がとても印象に残りました。

以前のBB通信でも書かれていたように、一流プレイヤーになった選手の親は共通して、付かず離れずの距離感を持って子どもと接していることが多いようですが、メッシの父親もそうであったようです。子どもの試合の結果に一喜一憂する他の親たちとは離れて、静かにメッシの試合の様子を見ていたそうです。映画の中では、父親が彼にサッカーの指導をする場面も出てきません。サッカーが好きでたまらないメッシ。背は低いけれど才能あふれるプレーで、上級生に混ざってプレーする彼の様子を何も言わずに見守り続けていたようです。

そんな父親ですが、メッシがホルモン障害で背が伸びないとわかり、貧しい今の暮らしではとてもその治療費が出せないと分かった時は、たくさんのクラブチームを回って交渉をしていきます。この時の父親の様子はとても必死な様子で描かれています。子どものプレーに関しては何も言わないが、子どもに最高の治療と環境を用意するためなら必死になって協力をする。そんな父親の姿が描かれていました。そうしている中で、彼の才能と将来性を見込んで治療費を全額負担し、アルゼンチンに住んでいた家族全員をスペインに呼び、契約をしたチームがありました。それがスペインのクラブチームのバルセロナでした。才能はあるとはいえ、背の小さな、障害を持った一人の外国の少年の治療費を全額負担して契約するバルセロナのというチームの懐の厚さにも驚かされました。

競技は違いますが、すでに育った選手を獲得するやり方ではなく、選手の将来性を大切にして育成を行っているサッカー界に学ぶことは多いのではないのでしょうか。これからも他のスポーツからも多くのことを学んでいきたいと思えます。

「プレーを楽しむ」

コーチ 土井 幹大

一年生が入部をして二ヶ月が経とうとしています。

先日、初めての練習試合を行い生き生きとプレーをする選手たちを見ていると、ミスを恐れているのではないかと感じる時が多くありました。

何かミスをしてしまうと怒られてしまうのではないかと不安に思い、大人の顔色を伺ってしまいがちですが、もともと野球はミスがつきもののスポーツですので、選手たちには気にせずプレーして欲しいと願っています。

私は現役のときは、ミスをしたら試合の途中で変えられたり、罵声を浴びせられたりしていました。

やはり、指導者からそのようなことをされると、選手としてのモチベーションはどんどん下がっていき、やる気をなくしてしまう自分がいました。

選手たちにはそのような思いをして欲しくないと考えているので、保護者の方もプレーを温かく見守って欲しいと思えます。

まだ、中学校1年生と身体もできていないので、うまくできなくて当たり前です。

しかし、練習をしていけば、徐々に色々なことができるようになっていきます。

その中で大人が「もっと練習しろ！」などを言ってしまい、野球が面白くないなと思ってしまうと、好きな野球をさらに好きになることはありません！

彼らの成長を信じて、共に温かく見守っていただければと思います。